# 2021年度 事業報告

学校法人桑沢学園

# 目　次

学校法人桑沢学園の概要 ..... 3
■　創立者　桑澤洋子　1910 年 - 1977 年 ..... 4
■　東京造形大学の建学の精神及び使命 ..... 5
■　専門学校桑沢デザイン研究所の教育の趣旨 ..... 5
■　法人及び設置学校の沿革 ..... 6
■　歴代理事長 ..... 7
■　東京造形大学の概要 ..... 8
■　専門学校桑沢デザイン研究所の概要 ..... 10
■　歴代学長及び所長 ..... 11
■　役員、評議員及び職員の概要 ..... 12

事 業 の 概 要 ..... 14

学校法人桑沢学園の主な事業報告 ..... 15
東京造形大学の主な事業報告 ..... 24
専門学校桑沢デザイン研究所の主な事業報告 ..... 41
中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況 ..... 52
経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策 ..... 53

# 学校法人桑沢学園の概要

## ■ 創立者　桑澤洋子　1910年 - 1977年

桑澤洋子は、昭和初期から建築・室内設計・服飾等のデザインジャーナリズムの世界で活躍。その中で、1919 年に建築家グロピウスによってワイマールに設立された、造形芸術の総合学校「バウハウス」の存在を知り、その影響を強く受けます。

機能性や合理性を追求したデザイン活動をすすめる中で、デザインの総合的な基礎教育と専門教育の重要さを痛感した彼女は、教育機関の実現のため努力を重ね、1954 年、各界気鋭の教育者、芸術家、デザイナーたちの協力を得て、当時としては画期的なデザインの専門学校「桑沢デザイン研究所」を設立しました。さらに高度な造形教育を追求する場として 1966 年には「東京造形大学」を設立、学長・理事長に就任しました。

試行錯誤をおそれない、しなやかさの中にも強さを持った独特の教育方法で多くの人材を育て、卒業生たちは広い領域で活躍、その業績は高く評価されています。

著書に『ふだん着のデザイナー』(1957 年、平凡社)、『桑澤洋子の服飾デザイン』(1977 年、婦人画報社)等。

**【年譜】**

| | |
|---|---|
| 1910 年 | 東京神田に生まれる。本名千代、後に洋子と改名する。 |
| 1928 年 | 女子美術学校(現・女子美術大学)師範科西洋画部に入学。 |
| 1932 年 | 同校を卒業。 |
| 1933 年 | バウハウスの教育システムを取り入れていた新建築工芸学院に入学。同学院主宰者の川喜田煉七郎の紹介により『住宅』の編集を手伝う。編集者の仕事を通して、戦後活動をともにするさまざまな人々と出会う。 |
| 1937 年 | 東京社(のちの婦人画報社)に正式に入社し、服飾関連の企画を担当する。 |
| 1940 年 | 婦人画報編集部で、通信販売を企画し、「婦人画報サービス・ステーション」を構想する。 |
| 1942 年 | 東京社を退社、銀座に「桑沢服飾工房」を開設し、服飾デザイナーとしての活動を本格的に開始する。しかし戦時下にあって、この時期に発表された洋子の作品は、勤労服、更生服の提案等であった。 |
| 1945 年 | 10 月に復刊した『婦人画報』に始まり、以後精力的に新しい生活のための洋服を、雑誌や講演会、ファッション・ショー等を通して提案し続ける。 |
| 1954 年 | 桑沢デザイン研究所を創立(ドレスデザイン科とリビングデザイン科の二科編成)。大丸百貨店東京店に「桑沢洋子イージー・ウェア」を開設し、以後既製服のデザインに積極的に取り組む。 |
| 1958 年 | 服飾界のブルー・リボン賞といわれた、日本ファッション・エディターズ・クラブ賞を受賞する。 |
| 1962 年 | ユニフォームの改善改良をめざして NUC(日本ユニフォーム・センター)が結成。すでにいくつかのユニフォーム制作を手がけていた洋子は、以後多くの企業ユニフォームをデザインする。 |
| 1964 年 | 東京オリンピックのいくつかのユニフォームを手がける。 |
| 1966 年 | 東京造形大学を開学し、学長に就任する。 |
| 1970 年 | 大阪万国博覧会のコンパニオン・ユニフォームを手がける。 |
| 1977 年 | 4 月 12 日永眠。享年 66 歳。 |

## ■ 東京造形大学の建学の精神及び使命

**【建学の精神】**

**社会をつくり出す創造的な造形活動の探究と実践**

東京造形大学は、デザインや美術の創作活動を時代の精神や社会の創造に深く結び付いたものとしてとらえ、それら造形活動を広く社会的な観点から探究し、進取の気概を持って創造的に実践することを建学の精神としています。

**【使命】**

1. デザイン及び美術の諸領域における優れた専門的知識・技術の教授研究
2. 社会全体を広く総合的な視点でとらえ、社会的問題の解決に向けて取り組むことのできる人材の育成
3. 造形活動を通した文化の創造と社会の発展への貢献

## ■ 専門学校桑沢デザイン研究所の教育の趣旨

**【教育理念】**

**未来へ向かっての人間の精神的・物質的両面からの要求に応える人材の育成**

専門学校桑沢デザイン研究所は、昭和 29（1954）年の創立以来 65 年にわたる教育理念（教育目的）として、「未来へ向う人間の精神的・物質的両面からの要求に応える人材の育成」を掲げてきた。人々の生活が多様化し、また不断の変化を続ける 21世紀の世界のなかで、この目標を達成するには、デザインという専門領域を通じて、新しい明日の生活を具現化することのできる能力を身につける必要がある。

そして、現実の制約や条件を創意の糧に転化し、自分の習得した技術や感性を使って独創的なデザインのできる人、さらに新しい社会の創造に加担できる人物、このような人材の育成を本校の教育指導上の具体的な目標としている。

## ■ 法人及び設置学校の沿革

以下に、法人及び設置学校の沿革を示します。

| | |
|---|---|
| 1954 年　4 月　20 日 | 東京都港区青山北町に桑沢デザイン研究所設立 |
| 1957 年　12 月　7 日 | 学校法人桑沢学園設立認可 |
| 1958 年　4 月 | 桑沢デザイン研究所新校舎使用開始 |
| 1966 年　1 月　26 日 | 東京造形大学造形学部設置認可 |
| 4 月　1 日 | 東京都八王子市元八王子町に東京造形大学開設 |
| 1976 年　12 月　9 日 | 専門学校桑沢デザイン研究所設立認可 |
| 1981 年　4 月　1 日 | 東京造形大学新教育運営制度発足 |
| 1990 年　6 月 | 八王子市宇津貫町に東京造形大学の新キャンパス着工 |
| 1991 年　12 月　20 日 | 東京造形大学臨時定員増認可（1992～1998 年） |
| 1992 年　4 月　1 日 | 東京造形大学宇津貫キャンパス部分開校 |
| | 東京造形大学造形計画専攻、比較造形専攻新設 |
| 1993 年　4 月　1 日 | 東京造形大学宇津貫キャンパス移転、全面開校 |
| 1998 年　4 月　1 日 | 東京造形大学新教育課程実施、教育運営制度を 6 専攻に改編 |
| 2003 年　4 月　1 日 | 東京造形大学造形学部の学科構成を改編<br>デザイン学科 9 専攻領域、美術学科 2 専攻領域 |
| 2004 年　11 月　30 日 | 東京造形大学大学院造形研究科設置認可 |
| 2005 年　4 月　1 日 | 東京造形大学大学院造形研究科造形専攻開設（修士課程） |
| | 東京造形大学大学院棟（12 号館）使用開始 |
| | 専門学校桑沢デザイン研究所渋谷新校舎使用開始 |
| | 専門学校桑沢デザイン研究所基礎造形専攻（附帯教育）開講 |
| 2010 年　9 月　1 日 | 東京造形大学 CS プラザ（10 号館）使用開始 |
| 2011 年　4 月　1 日 | 東京造形大学教育課程改編、学部構成再編<br>デザイン学科 8 専攻領域、美術学科 2 専攻領域 |
| 2015 年　10 月　30 日 | 東京造形大学大学院造形研究科造形専攻博士後期課程設置認可 |
| 2016 年　4 月　1 日 | 東京造形大学大学院造形研究科造形専攻博士後期課程開設 |
| | 東京造形大学大学院造形研究科造形専攻修士課程に<br>造形教育研究領域を新設 |
| 2018 年　4 月　1 日 | 東京造形大学大学院棟（13 号館）使用開始 |
| 2020 年　4 月　1 日 | 専門学校桑沢デザイン研究所基礎デザイン専攻（附帯教育）開講 |
| 2021 年　4 月　1 日 | 専門学校桑沢デザイン研究所夜間部の教育課程を改編し、専攻デザイン科に改称 |
| 2022 年　3 月　30 日 | 専門学校桑沢デザイン研究所　渋谷区神南に新校舎取得 |

## ■ 歴代理事長

以下に、歴代理事長を示します。

| 氏　名 | 就 任 期 間 |
|---|---|
| 桑澤　洋子 | 1957 年 12 月 ～1974 年 5 月 |
| 氣賀　健三 | 1974 年 6 月 ～ 1994 年 5 月 |
| 山本　哲也 | 1994 年 6 月 ～ 1998 年 5 月 |
| 小田　一幸 | 1998 年 6 月 ～ 2014 年 10 月 |
| 有吉　　徹 | 2014 年 10 月 ～ 2015 年 5 月 |
| 田口　浩一 | 2015 年 6 月 ～ 2019 年 5 月 |
| 山際　康之 | 2019 年 7 月 ～ |

## ■ 東京造形大学の概要

以下に、東京造形大学の概要を示します。

### 1. 所在地

〒192－0992　東京都八王子市宇津貫町 1556

### 2. 大学院及び学部（2021 年 5 月 1 日現在）

**造形学部**

| 区　分 | 学　科 | 専 攻 領 域 |
|---|---|---|
| 造形学部 | デザイン学科 | グラフィックデザイン |
| | | 写　　真 |
| | | 映　画　・　映　像 |
| | | アニメーション |
| | | メディアデザイン |
| | | 室内建築 |
| | | インダストリアルデザイン |
| | | テキスタイルデザイン |
| | 美術学科 | 絵　　画 |
| | | 彫　　刻 |

**大学院**

| 区　分 | 専　攻 | 研 究 領 域 |
|---|---|---|
| 造形研究科 | 造形専攻<br>（修士課程） | デザイン |
| | | 美　　術 |
| | | 造形教育 |
| | 造形専攻<br>（博士後期課程） | デザイン |
| | | 美　　術 |
| | | 造形教育 |

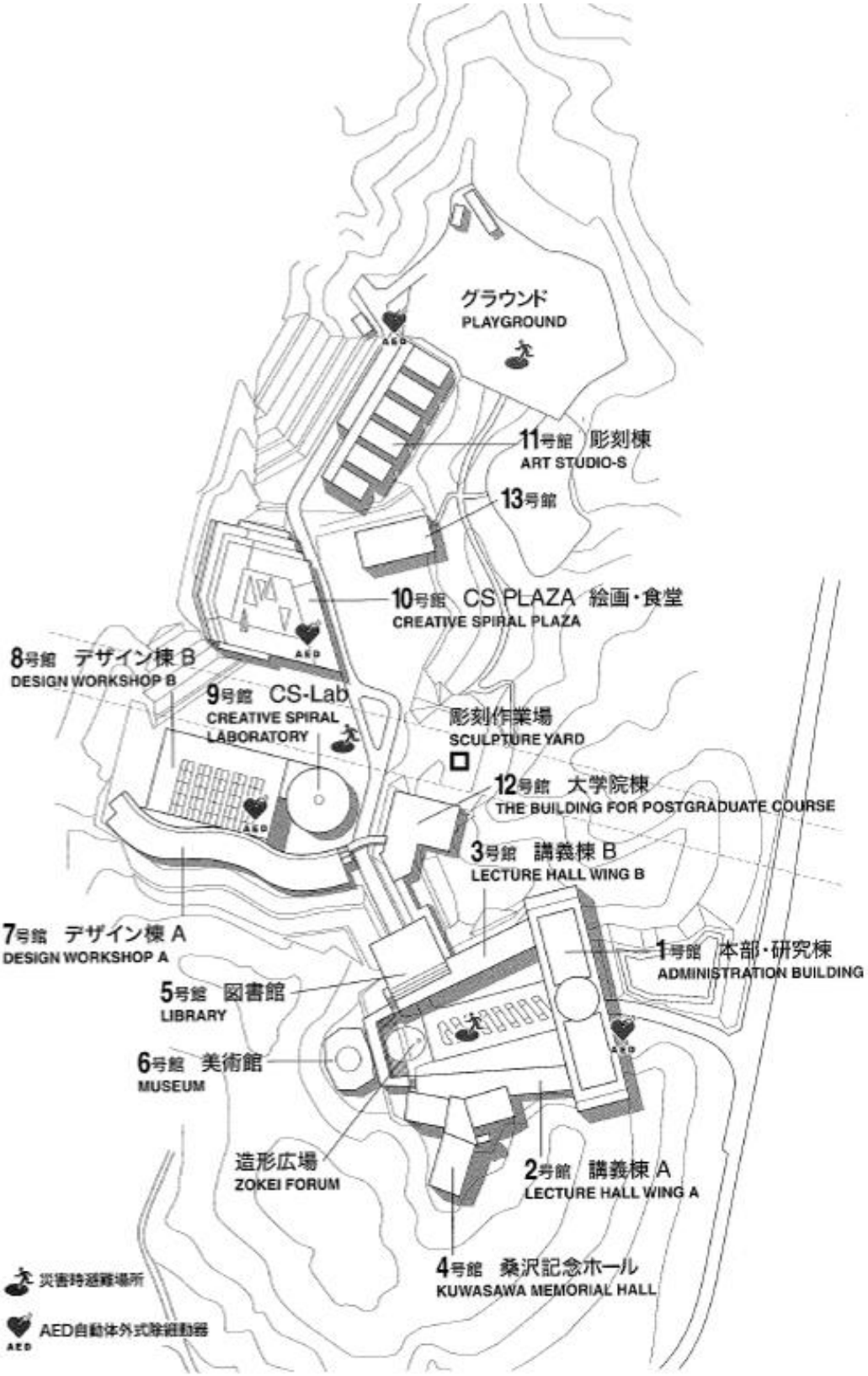
### 3. 付属機関

図書館、美術館

### 4. 学生数

| 区 分 | 学科等 | 入学定員 | 収容定員 | 学生数 |
|---|---|---|---|---|
| 造形学部 | デザイン学科 | 285 名 | 1,140 名 | 1,399 名 |
| | 3 年次編入 | 14 名 | 28 名 | |
| | 美術学科 | 95 名 | 380 名 | 407 名 |
| | 3 年次編入 | 5 名 | 10 名 | |
| 造形研究科 | 造形専攻 | 55 名 | 115 名 | 124 名 |

5. キャンパス配置図


グラウンド
PLAYGROUND
11号館 彫刻棟
ART STUDIO-S
13号館
10号館 CS PLAZA 絵画・食堂
CREATIVE SPIRAL PLAZA
8号館 デザイン棟 B
DESIGN WORKSHOP B
9号館 CS-Lab
CREATIVE SPIRAL LABORATORY
彫刻作業場
SCULPTURE YARD
12号館 大学院棟
THE BUILDING FOR POSTGRADUATE COURSE
3号館 講義棟 B
LECTURE HALL WING B
7号館 デザイン棟 A
DESIGN WORKSHOP A
1号館 本部・研究棟
ADMINISTRATION BUILDING
5号館 図書館
LIBRARY
6号館 美術館
MUSEUM
造形広場
ZOKEI FORUM
2号館 講義棟 A
LECTURE HALL WING A
4号館 桑沢記念ホール
KUWASAWA MEMORIAL HALL
災害時避難場所
AED自動体外式除細動器
AED

## ■ 専門学校桑沢デザイン研究所の概要

以下に、専門学校桑沢デザイン研究所の概要を示します。

### 1. 所在地

〒150－0041　東京都渋谷区神南 1－4－17

### 2. 課程及び学科（2021 年 5 月 1 日現在）

| 区分 | 学 科 等 | 専攻、コース |
|---|---|---|
| デザイン専門課程 | 総合デザイン科<br>（昼間部・3 年制） | ビジュアルデザイン専攻 |
| | | プロダクトデザイン専攻 |
| | | スペースデザイン専攻 |
| | | ファッションデザイン専攻 |
| | 専攻デザイン科<br>（夜間部・2 年制） | ビジュアルデザイン専攻 |
| | | プロダクトデザイン専攻 |
| | | スペースデザイン専攻 |
| | | ファッションデザイン専攻 |
| 附帯教育 | 基 礎 造 形 専 攻<br>（夜 間 部 ・1 年 制） | |
| | 基 礎 デ ザ イ ン 専 攻<br>（夜 間 部 ・1 年 制） | |

### 3. 学生数

| 区分 | 学 科 等 | 入学定員 | 総定員 | 学生数 |
|---|---|---|---|---|
| デザイン専門課程 | 総合デザイン科<br>（昼間部・3 年制） | 160 名 | 480 名 | 575 名 |
| | デザイン専攻科<br>（夜間部・2 年制） | 160 名 | 320 名 | 297 名 |
| 附帯教育 | 基礎造形専攻<br>（夜間部・1 年制） | 40 名 | 40 名 | 45 名 |
| | 基礎デザイン専攻<br>（夜間部・1 年制） | 40 名 | 40 名 | 45 名 |

## ■ 歴代学長及び所長

以下に、歴代学長及び所長を示します。

### 1. 東京造形大学　学長

| 氏　名 | 就 任 期 間 |
|---|---|
| 桑澤　洋子 | 1966 年 1 月　～　1973 年 4 月 |
| 阿部　公正 | 1973 年 4 月　～　1973 年 6 月 |
| 明石　一男 | 1974 年 4 月　～　1978 年 1 月 |
| 宮田豊太郎 | 1978 年 4 月　～　1980 年 3 月 |
| 鈴木　二郎 | 1980 年 4 月　～　1984 年 3 月 |
| 豊口　　協 | 1984 年 4 月　～　1992 年 3 月 |
| 海本　　健 | 1992 年 4 月　～　2000 年 3 月 |
| 白澤　宏規 | 2000 年 4 月　～　2008 年 3 月 |
| 諏訪　敦彦 | 2008 年 4 月　～　2013 年 7 月 |
| 有吉　　徹 | 2013 年 12 月　～　2017 年 3 月 |
| 山際　康之 | 2017 年 4 月　～ |

### 2. 専門学校桑沢デザイン研究所　所長

| 氏　名 | 就 任 期 間 |
|---|---|
| 桑澤　洋子 | 1954 年　4 月　～　1974 年　5 月 |
| 根田　みさ | 1975 年　2 月　～　1981 年　3 月 |
| 高山正喜久 | 1981 年　4 月　～　1987 年　3 月 |
| 栄久庵憲司 | 1987 年　4 月　～　1990 年　3 月 |
| 氣賀　健三 | 1990 年　4 月　～　1993 年　3 月 |
| 横山　徳禎 | 1993 年　4 月　～　1996 年　3 月 |
| 市瀬　昌昭 | 1996 年　4 月　～　2005 年　3 月 |
| 小田　一幸 | 2005 年　4 月　～　2008 年　3 月 |
| 内田　　繁 | 2008 年　4 月　～　2011 年　9 月 |
| 浅葉　克己 | 2011 年　10 月　～　2020 年　3 月 |
| 工藤　強勝 | 2020 年　4 月　～ |

## ■ 役員、評議員及び職員の概要

以下に、役員、評議員及び職員の概要を示します。

### 1. 役員（理事 10 名、監事 2 名）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理事長 | 山際　康之 | 理事 | 生嶋　順理 |
| 理事 | 工藤　強勝 | 理事 | 佐藤　竜平 |
| 理事 | 田口　浩一 | 理事 | 大迫　修三 |
| 理事 | 田中　清利 | 理事 | 大橋　正芳 |
| 理事 | 小関　　潤 | 監事 | 白井　　徹 |
| 理事 | 森まさあき | 監事 | 古山　正文 |

（2022 年 3 月 31 日現在）

### 2. 役員の責任の明確化に関する事項

#### (1) 責任限定契約の状況

本学園においては、理事（理事長、業務を執行したその他の理事又はこの法人の職員でない者に限る。）又は監事（以下、「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金 1 円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができることとしています。契約を締結している非業務執行理事等は以下のとおりです。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理事 | 大迫　修三 | 監事 | 白井　　徹 |
| 理事 | 大橋　正芳 | 監事 | 古山　正文 |

#### (2) 役員賠償責任保険契約の加入状況

| | |
|---|---|
| 加入制度 | 私大協　役員賠償責任保険制度（D&O マネジメントパッケージ） |
| 加入期間 | 2021 年 4 月 1 日～2022 年 4 月 1 日 |
| 被保険者 | （個人被保険者）理事・監事、評議員、執行役員、管理職従業員、<br>社外派遣役員、退任役員<br>（記名法人）　学校法人桑沢学園 |
| 保険期間中<br>総支払限度額 | 10 億円 |

## 3. 評議員(22 名)

| | | | |
|---|---|---|---|
| 評議員 | 山際　康之 | 評議員 | 田中　敬二 |
| 評議員 | 工藤　強勝 | 評議員 | 田中　清利 |
| 評議員 | 海士　智也 | 評議員 | 生嶋　順理 |
| 評議員 | 川辺　英明 | 評議員 | 石間　　裕 |
| 評議員 | 中川　裕章 | 評議員 | 江口　響子 |
| 評議員 | 南澤　義晃 | 評議員 | 大橋　正芳 |
| 評議員 | 和田　敏克 | 評議員 | 小関　　潤 |
| 評議員 | 遠藤　　毅 | 評議員 | 佐藤　和也 |
| 評議員 | 御手洗　陽 | 評議員 | 佐藤　竜平 |
| 評議員 | 米山　逸朗 | 評議員 | 調　　ゆい |
| 評議員 | 大豆生田　守 | 評議員 | 森 まさあき |

(2022 年 3 月 31日現在)

## 4. 職員

| | |
|---|---|
| 法　人 | 専任職員数　 5 名(役員除く) |
| 東京造形大学 | 専任教員数　52 名 |
| | 専任職員数　55 名(嘱託含む) |
| 専門学校桑沢デザイン研究所 | 専任教員数　19 名 |
| | 専任職員数　21 名 |

(2021年 5 月 1日現在)

# 事 業 の 概 要

# 学校法人桑沢学園の主な事業報告

2021年度事業計画に記載した事業及びその他事業についての実施・対応事項を示します。

2021年度の計画事業

- 計画的な財政運営
- 収入財源の多様化
- IT化推進による業務効率化
- 経営のガバナンス改革
- 教学組織の意思決定・運営体制の強化
- 中期ビジョンに基づく戦略的経営
- キャンパス整備マスタープランの策定
- SD活動の推進
- 人事考課制度の導入
- 労務管理体制の強化
- 職場環境改善
- 学園運営に関する情報公開の促進
- コンプライアンスの推進
- リスクマネジメント体制の強化
- その他

## ■ 計画的な財政運営

以下に、計画的な財政運営に向けた実施・対応事項を示します。

| 実施事項 | 実施内容 | |
|---|---|---|
| 基本金組入計画の立案 | 第2号基本金 | 東京造形大学 彫刻棟（11号館）建替計画<br>組入期間:2017年度 ～ 2026年度<br>組 入 額:年1億円<br>総額25億円（期末残高21億1,492万円） |
| | 第3号基本金 | 奨学資金<br>組入期間:2016年度 ～ 2025年度<br>組 入 額:年1億円<br>総額33億円（期末残高30億3,626万円）<br>基金の運用益の一部1,154万円を奨学資金として組入 |
| | | 学事振興資金 総額3億5,994万円達成<br>（期末残高3億8,106万円）<br>基金の運用益の一部557万円を学事振興資金として組入 |
| 資産運用・蓄積計画の立案 | 減価償却引当特定資産 | 年3億円積立<br>（減価償却累計額121億3,867万円、期末残高63億2,923万円）[1] |
| 教職員の人件費計画（雇用計画）の立案 | 人件費比率[2]50%程度を想定した雇用計画を立案 | |

[1] 2021年度決算値

[2] 経常収入（教育活動収入計＋教育活動外収入計）に占める人件費の割合

## ■ 学生数の推移

2019年度からの学生数の推移を以下に示します。

| 部門 | 区　分 | 2021年度 | 2020年度 | 2019年度 |
|---|---|---|---|---|
| | | 実　算 | 実　算 | 実　算 |
| 大学 | 学　部 | 1,806 | 1,792 | 1,784 |
| | 大学院（修士） | 115 | 116 | 118 |
| | 大学院（博士後期） | 9 | 5 | 8 |
| | 計 | 1,930 | 1,913 | 1,910 |
| 研究所 | 総合デザイン科 | 575 | 587 | 582 |
| | 専攻デザイン科 | 297 | 293 | 275 |
| | 基礎造形専攻 | 45 | 45 | 45 |
| | 基礎デザイン専攻 | 45 | 37 | — |
| | 計 | 962 | 962 | 902 |

※実算値は、各年度5月1日時点の実数を記載

## ■ 教職員数の推移

2019年度からの教職員数の推移を以下に示します。

| 部　門 | 種　別 | 2021年度 | 2020年度 | 2019年度 |
|---|---|---|---|---|
| 大学 | 専任教員 | 52 | 50 | 50 |
| | 兼務教員 | 268 | 263 | 275 |
| | 専任職員 | 55 | 55 | 55 |
| | 兼務職員 | 30 | 32 | 32 |
| | 計 | 405 | 400 | 412 |
| 研究所 | 専任教員 | 19 | 19 | 19 |
| | 兼務教員 | 211 | 231 | 231 |
| | 専任職員 | 21 | 22 | 22 |
| | 兼務職員 | 13 | 9 | 10 |
| | 計 | 264 | 281 | 282 |
| 法人 | 専任職員 | 5 | 7 | 7 |
| | 兼務職員 | 0 | 0 | 0 |
| | 役員 | 12 | 12 | 12 |
| | 計 | 17 | 19 | 19 |
| 学園 | 合計 | 686 | 700 | 713 |

※各人員数は、各年度5月1日時点の実数を記載
※兼務教員:専任教員を除く教員（非常勤教員等）　兼務職員:専任職員を除く職員（助手、臨時職員等）
役員:理事・監事（評議員は除く）

## ■ 収入財源の多様化

以下に、収入財源の多様化に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. 補助金の獲得

(1) 補助金申請

2021 年度等の補助金獲得実績は以下のとおりです。

| 部門 | 区分 | 名称 | 内容 | | 実績額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大学 | 私立大学等経常費補助金 | 一般補助 | 専任教職員数及び学生数を基に、学生定員の管理状況や学生生徒等納付金の教育研究経費等への還元状況等に応じて交付される補助金 | | 1億458万円 |
| | | 特別補助 | 大学院等の機能の高度化 | 大学院における研究の充実 | 339 万円 |
| | | | 授業料減免事業等支援 | 災害罹災学生等に対する学生納付金減免に対する補助金 | 80 万円 |
| | | | 新型コロナウイルス感染症対策支援 | 新型コロナウイルス感染症対策支援に対する補助金 | 159 万円 |
| | | 授業料等減免費交付金 | 高等教育の修学支援制度事業による補助金 | | 8,436万円 |
| | 八王子市による補助金 | 結核予防費補助金 | 定期結核健康診断の費用に対する補助金 | | 15万円 |
| 研究所 | 東京都による補助金 | 結核予防費都費補助金 | 定期結核健康診断の費用に対する補助金 | | 14万円 |
| | | 授業料等減免費用 | 高等教育の修学支援制度による補助金 | | 2,746万円 |
| | 東京都私学財団 | 教育環境整備費 | 第1コンピュータ室のパソコンリプレイスのリース代に対する助成金 | | 197万円 |
| | | | 自己点検・自己評価の取り組みに対する補助金 | | 20万円 |

### 2. 寄付金の獲得

教育振興資金（寄付金）の募集にあたり、以下の取り組みを実施しました。

(1) 寄付者の利便性を高めるため WEB 受付システムによるクレジット決済を運用しています。

(2) 新規取引先への教育振興資金のお願いを実施し、寄付金の獲得に努めました。

## ■ IT化推進による業務効率化

以下に、IT 化推進による業務効率化に向けた実施・対応事項を示します。

1. **Web 給与明細の導入**

   Web 給与明細を全学的に導入することで、郵送コストの削減、ペーパーレス化の実現及び教職員へのサービス向上に寄与することができました。

2. **調達ルールの徹底と周知**

   物品調達におけるルールについて、基本マニュアルを策定することで、全学的な周知を徹底いたしました。

## ■ 経営のガバナンス改革

以下に、経営のガバナンス改革に向けた実施・対応事項を示します。

1. **学校法人制度改革に関する情報収集の実施**

   文部科学省等の諸機関が発信する学校法人制度改革やガバナンス改革に関する情報を収集し、不明点があれば都度各機関に確認しました。今後も文部科学省主催の「学校法人制度改革説明会」に参加するなど引き続き情報収集に努めてまいります。

2. **法令に基づく諸規程改正等の対応**

   育児・介護休業法改正内容に基づき、学園規程の改正案検討を進めました。また、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画策定に向けて情報収集を行い、働きやすい職場環境へ向けた本学園の行動計画案を検討しました。

## ■ 教学組織の意思決定・運営体制の強化

教学組織の意思決定・運営体制の強化に向け、教学に関するガバナンス・コードの策定に向けた検討を行いましたが、策定には至りませんでした。

## ■ 中期計画に基づく戦略的経営

中期計画に基づく戦略的経営を行うため、以下に実施・対応事項を示します。

1. **ビジョンに基づく計画立案**

   「中期計画（2021-2025）」、に基づき、事業計画・予算計画を立案し、実行しました。

2. **「管理職ミーティング」の実施**

   事務部門の情報共有、意見交換の機会として、月に 2 回程度の頻度で、各部門の業務進捗について報告する機会を設けました。また、8 月に管理職を対象とした研修を行い、部署内におけるコミュニケーションやフィードバックに関する知識を習得し、管理職間で意見交換を行う場を設けました。

3. **中期計画のブラッシュアップの実施**

   「桑沢学園 中期計画（Road to 2025:2021-2025）」について、教職員に向けた説明を行いました。また、その進捗状況、社会情勢の変動をみながら、ブラッシュアップを行いました。

## ■ キャンパス整備マスタープランの策定

以下に、キャンパス整備マスタープランの策定に向けた実施・対応事項を示します。

| 実施校 | 計画の内容 | 備考 |
|---|---|---|
| 大学 | 11号館（新彫刻棟）<br>運用方法検討 | 彫刻専攻領域だけでなく、全専攻領域の学生が使用できる作業スペースのあり方について検討しました。 |
| 研究所 | 新教育施設の取得 | 学修環境の拡充に向けて渋谷区神南に新たな教育用地・建物を取得しました。 |
| | 空調設備の計画的入替 | 2021年度においては3F空調機の更新を行いました。 |

## ■ SD活動の推進

以下に、SD 活動の推進に向けた実施・対応事項を示します。

**1. SD 活動の実施**

職員の能力及び資質向上に向け、以下の取組みを組織的に展開しました。

| 目的 | 実施校 | 実施項目 | 対象者 | 実施内容 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 高度専門知識の修得 | 学園 | 新人研修 | 新入職員 | ・新任職員研修<br>（規程等に関する学内研修）<br>・学校職員基礎講座<br>・学校コンプライアンス講座 | 7 名参加<br>5 月 11,14 日実施 |
| | | 自己啓発研修費助成制度 | 全職員 | ・個々の職員が行う自己啓発研修への助成 | 34 件助成実施 |
| | 大学 | 日本私立大学協会主催研修 | 事務局長<br>部課長<br>クラス | ・事務局長相当者研修会<br>・部課長相当者研修会<br>・学生生活指導主務者研修会等 | オンラインで実施 |
| | 学園 | 業務マニュアル | 全職員 | ・各業務の概要・手順書・年間予定表を最新の状況に更新し事務局内で共有 | 随時実施 |
| | | 職位等に応じた研修制度 | 全職員 | ・職位や経験、業務内容に応じた研修 | 5 月にメンター研修、8 月に管理職研修を実施。 |
| 人事制度改革 | 学園 | 自己管理シート | 全職員 | ・年度目標等を報告（年度始）<br>・所属長による課員との業務面談の実施、年度目標等に対する進捗・達成状況の把握 | 前後期各 1 回以上 |

2. **職位等に応じた研修制度の導入検討**

個々の職員が必要とする知識・技能の習得を促進するための、職位や経験、業務内容に応じた研修については、新たに学園で導入した「職員メンター制度」におけるメンター担当者や希望者を対象とした「メンター研修」を実施しました。また、8月には管理職を対象に、「フィードバック研修」を実施しました。次年度以降も引き続き状況やニーズに合った研修の内容を検討します。

3. **所属長による課員との業務面談の実施**

自己管理シートの記載内容について確認・フィードバックすることを目的として、所属長による課員との業務面談を実施しました（前後期各1回以上）。所属長から課員への業務指導を行う他、コミュニケーションを図る機会として活用することが出来ました。

## ■ 人事考課制度の導入の検討

専門業者が提供する「人事・評価制度構築支援サービス」を活用し、本学園に適合する人事考課制度の導入に向けた検討を行うこととしておりましたが、業務における優先順位の観点から導入を見送りました。

## ■ 労務管理体制の強化

以下に、労務管理体制の強化に向けた実施・対応事項を示します。

1. **労務管理の適正化・迅速化**

労務管理業務の効率化を図るため、新たな労務管理システムの運用を開始し、運用している中で必要な見直しを行いました。

2. **労働環境の改善**

新規入職の専任職員が職場環境に慣れるためのサポート及び学園組織内でのコミュニケーションを活性化させることを目的として、新たに「職員メンター制度」を導入しました。半年間をかけて月に１回のメンタリングを実施することで、新入職員の職場理解や部署を超えた斜めのコミュニケーションの推進を図り、働きやすい環境の整備に取り組みました。

## ■ 職場環境改善

以下に、職場環境改善に向けた実施・対応事項を示します。

1. **「職場環境改善プロジェクト」の発足**

学園の中期計画テーマの一つである「多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり」の施策の一つとして、学園内に「職場環境改善プロジェクト」を発足し、教職員の心身の健康維持・向上と、働きがい・やりがいの創出に向けて検討を進めました。

## ■ 学園運営に関する情報公開の促進

以下に、学校運営に関する情報公開の促進に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. 学校運営に関する各種情報公開

私立学校法改正の内容に基づき、以下の情報を公開しました。

- 2020 年度事業報告・決算報告
- 2021 年度事業計画・予算計画
- 学校法人桑沢学園寄附行為
- 役員等名簿
- 役員に対する報酬等の支給の基準

### 2. 桑沢学事振興資金（第 3 号基本金引当特定資産の運用益による学事振興資金事業）

以下の 1 件の学事振興資金事業を助成しました。

| 実施者（代表） | 事業名 | 備考 |
|---|---|---|
| 近藤　昌美<br>東京造形大学教員 | 北京と上海の中国先端のアートシーンの視察 | 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止 |
| 大橋　　博<br>東京造形大学教員 | 「彫刻 575」　沖縄県立芸術大学主催による彫刻展<br>（日本、韓国、中国、タイ、他アジア地域の美術大学による交流展） | 10 月 27 日～<br>11 月 13 日 |

### 3. 桑沢奨学資金（第 3 号基本金引当特定資産の運用益による奨学資金事業）

以下のとおり奨学金を給付しました。

| 区分 | 名　称 | 奨学金の概要 | 給付者数 | 給付額（1 人当たり） |
|---|---|---|---|---|
| 大学 | 年間優秀奨学金 | 学業優秀者への奨学金授与 | 30 名<br>（学部 2～4 年生） | 20 万円 |
| | 大学院修士課程<br>優秀奨学金 | | 10 名<br>（修士課程 1,2 年生） | 40 万円<br>（授業料より減免） |
| | 大学院博士後期課程<br>優秀奨学金 | | 4 名<br>（博士後期課程 1～3 年生） | 50 万円<br>（授業料より減免） |
| | 大学院修士課程<br>研究奨学金 | | 10 名<br>（修士課程 1,2 年生） | 30 万円 |
| | 大学院修士課程<br>特待奨学金 | | 4 名<br>（修士課程 1,2 年生） | 145 万円<br>（授業料より減免） |
| | 学長賞 | 社会的に高い評価を受けた学生への奨学金授与 | - | 2021 年度<br>該当者なし |
| | 派遣留学生奨学金 | 海外協定校へ派遣される学生への奨学金授与 | - | 2021 年度<br>該当者なし |
| | 兄弟姉妹在籍<br>授業料減額制度 | 正規の課程に同時に兄弟姉妹が在籍する場合の奨学金授与 | 4 名（2 組） | 30 万円<br>（授業料より減免） |
| 研究所 | 学業優秀者奨学金 | 学業優秀者への記念品授与 | 11 名<br>（総合デザイン科 3 年生） | 記念品授与 |
| | 特待生奨学金 | 学業優秀者への奨学金授与 | 15 名<br>（総合デザイン科 2,3 年生、デザイン専攻科 2 年生） | 総合デザイン科 2,3 年生:<br>20 万円<br>デザイン専攻科 2 年生:<br>10 万円 |
| | 修学支援奨学金 | 日本学生支援機構奨学金の貸与を受ける学業優秀者への奨学金授与 | 42 名<br>（総合デザイン科 1,2 年生、専攻デザイン科 1 年生） | 総合デザイン科 1,2 年生:<br>10～40 万円<br>専攻デザイン科 1 年生:<br>5～20 万円 |

## ■ コンプライアンスの推進

以下に、コンプライアンスの推進に向けた実施・対応事項を示します。

1. **内部監査の実施**

   内部監査担当職員を配置し、学内業務が法令や学内規程を遵守して行われているか、内部監査を実施しました。

2. **コンプライアンスの推進に向けた環境整備**

   コンプライアンス室において、コンプライアンスの推進に関する取り組みを実施しました。

## ■ リスクマネジメント体制の強化

学生や教職員の安全を確保するため、以下を実施します。

1. **防災の強化に向けた取組み**

   災害時の対応や避難場所・避難経路を確認するための避難訓練（年1回、大学・研究所）、また研究所においては併せて初期消火訓練の実施を予定していましたが、コロナ禍のため中止としました。

2. **私立学校経営者（役員）の損害賠償責任保険への加入**

   私立学校法に役員の損害賠償責任が新たに規定されたことに備え、役員の損害賠償責任保険に加入しました。

## ■ その他

**被災学生支援**

東日本大震災等の災害救助法適用地域に居住する世帯の学生を対象とし、最短の修業年限の間、被災状況に応じて以下のとおり学生納付金を減免しました。

| 実施校 | 対象者数 | 備考 |
|---|---|---|
| 東京造形大学 | 3 名 | ・東北地方太平洋沖地震 |
| 桑沢デザイン研究所 | 2 名 | ・東北地方太平洋沖地震及び熊本地震 |

# 東京造形大学の主な事業報告

2021年度事業計画に記載した事業及びその他事業について実施・対応事項を示します。

2021年度の計画事業

- 学生募集の強化
- キャリア支援の強化
- 教育力の強化
- 研究の研鑽
- 学生サポートの充実
- 国際交流の推進
- 社会連携・貢献の強化
- ブランド戦略の強化
- キャンパス整備
- 自己点検・評価の取り組み

## ■ 学生募集の強化

以下に、学生募集の強化に向けた実施・対応事項を示します。

**1. 2022 年度入試結果（2021 年度実施）**

(1) 造形学部

特別選抜（総合型・学校推薦型・外国人留学生）入試、一般選抜入試

| 専攻領域 | 募集人員 | 入学者数 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 総合型/学校推薦型/外国人留学生 | 一般選抜入試 | 合計 |
| グラフィックデザイン | 85 | 45 | 52 | 97 |
| 写真 | 21 | 12 | 12 | 24 |
| 映画・映像 | 30 | 9 | 29 | 38 |
| アニメーション | 33 | 32 | 13 | 45 |
| メディアデザイン | 30 | 10 | 26 | 36 |
| 室内建築 | 30 | 13 | 24 | 37 |
| インダストリアルデザイン | 32 | 12 | 26 | 38 |
| テキスタイルデザイン | 24 | 21 | 12 | 33 |
| 絵画 | 75 | 37 | 38 | 75 |
| 彫刻 | 20 | 12 | 11 | 23 |
| 学部合計 | 380 | 203 | 243 | 446 |

編入学試験(3 年次)

| 専攻領域 | 募集人員 | 入学者数 |
|---|---|---|
| グラフィックデザイン | 14 | 3 |
| 写真 | | 5 |
| 映画・映像 | | 0 |
| アニメーション | | 1 |
| メディアデザイン | | 1 |
| 室内建築 | | 5 |
| インダストリアルデザイン | | 2 |
| テキスタイルデザイン | | 0 |
| 絵画 | 5 | 0 |
| 彫刻 | | 2 |
| 学部合計 | 19 | 19 |

(2) 大学院造形研究科

修士課程

| 研究領域 | 募集人員 | 入学者数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 学内推薦選抜 | A 日程 | B 日程 | 合計 |
| デザイン | 50 | 5 | 19 | 12 | 36 |
| 美術 | | 8 | | 10 | 18 |
| 造形教育 | | 0 | 4 | 3 | 7 |
| 研究科合計 | 50 | 13 | 23 | 25 | 61 |

博士後期課程

| 研究領域 | 募集人員 | 入学者数 |
|---|---|---|
| デザイン | 5 | 1 |
| 美術 | | 1 |
| 造形教育 | | 1 |
| 研究科合計 | 5 | 3 |

## 2. 学生募集活動

感染症拡大の防止策を十分に講じた上で、以下の対面活動を重視した学生募集活動をしました。

| 区分 | 実施項目 | 活 動 内 容 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 学外活動 | 高校訪問<br>高校内ガイダンス<br>模擬授業<br>体験授業 | 高校1～3年生を対象とした学校説明会の実施 | 75校<br>※オンラインによる実施を含む |
| | 予備校訪問<br>予備校内説明会<br>ワークショップ | 予備校生及び予備校講師に向けた説明会及びワークショップの実施 | 13 校 |
| | 進学相談会 | 業者主催の進学相談会（ブース形式）への参加 | 19 会場<br>※感染症の影響で参加見送りとした 1 件を除く |
| 学内活動 | 大学見学<br>（個別対応） | 本学の概要説明、志望する領域の関連施設の案内（土・日・祝日は資料を渡しての自由見学） | 136 名<br>※自由見学 31 件を含む |
| | 高校団体による見学会 | 学内施設・教育設備を紹介、授業見学、教員による専攻領域紹介等 | 2 校 |
| | 専攻領域説明会 | 6 月に事前申込制で開催（1 回） | 6 月 12・13 日<br>463 名来場 |
| | オープンキャンパス | 7 月に開催（1 回） | 7 月 17・18 日<br>2570 名来場 |

## 3. 広報機能の強化

以下のとおり広報機能の強化に向けた活動を実施しました。

(1)2022 年度版大学案内の発行

学生募集活動における重要なツールのひとつである「大学案内」について、印刷物の特性を活かした本学ならではの魅力ある冊子として制作しました。

(2)広報用の記録撮影を実施

広報用素材の蓄積を目的として、本学の教育研究活動の記録撮影をプロのカメラマンに依頼し実施しました。

(3)プレスリリース配信代行業者利用による情報発信

外部業者のネットワークを活用した情報の拡散により、本学関連のニュースの露出拡大に努めました。

(4)各種広告媒体の活用による広報

交通、新聞、Web など各広告媒体の特性を考慮した広告出稿を行い、本学への興味関心度及び認知度の向上を図りました。

(5)SNS（Social Network Service）の活用

「東京造形大学公式 facebook」・「東京造形大学附属美術館公式 facebook」・「東京造形大学公式 instagram」・「東京造形大学附属美術館公式 instagram」・「東京造形大学公式 twitter」・「東京造形大学附属美術館公式 twitter」を通じて、在学生・卒業生・教員の活動を広く学内外に発信しました。

大学公式 SNS フォロワー数の推移　（名）

| | 2022 年4月 | 2021 年4月 | 2020 年 4 月 | 2019 年 3 月 | 2018 年 3 月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大学公式 facebook | 1,370 | 1,218 | 1,109 | 926 | 611 |
| 大学公式 instagram | 3,853 | 3,264 | 2,684 | 1,948 | 1,012 |
| 大学公式 twitter | 2,922 | 2,275 | 1,695 | 1,023 | 232 |

(6)YouTube チャンネルの活用

「東京造形大学公式 YouTube チャンネル」を 2019 年度に開設し、2021 年度は 16 本の動画を公開しました。2021 年度に公開した動画の視聴回数は 14,716 回、これまで公開した動画を含めた視聴回数は 2 万回を超えました。(2021 年 1 月～2022 年 1 月)

**4. 一般選抜入学試験「共通テストB方式」の拡充**

一般選抜入学試験で大学共通テストの成績のみで合否を判定する「共通テストB方式」の対象専攻領域にデザイン学科インダストリアルデザイン専攻領域を加え、多様な入学者を受け入れるために入試制度を拡充して入学者選抜を実施しました。

**5. 一般選抜入学試験デザイン学科の新実技試験の周知**

多様な志願者・入学者の確保を目的として、2021 年度入試で新設したデザイン学科の実技試験「発想力」について、新聞の全面広告や各種雑誌の純広告及び記事広告への出稿、進学相談会での告知などを通じて、認知度の向上を図りました。

## ■ キャリア支援の強化

キャリア支援の強化に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. 2021年度就職率（就職者／就職希望者）

就職率は以下のとおりです。

（1） 造形学部

| 学科/専攻領域 | | 2022年3月卒業生（2022年5月1日時点） | | | | 2021年3月卒業生（2021年5月1日時点） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 就職率 | 就職者 | 希望者 | 学生数 | 就職率 | 就職者 | 希望者 | 学生数 |
| デザイン学科 | GD | 67.8% | 40 | 59 | 86 | 77.0% | 47 | 61 | 81 |
| | 写真 | 86.7% | 13 | 15 | 25 | 85.7% | 12 | 14 | 31 |
| | 映画 | 100% | 16 | 16 | 29 | 80.0% | 12 | 15 | 28 |
| | ｱﾆﾒｰｼｮﾝ | 53.8% | 14 | 26 | 37 | 96.0% | 24 | 25 | 40 |
| | ﾒﾃﾞｨｱ | 66.7% | 12 | 18 | 29 | 75.9% | 22 | 29 | 40 |
| | 室建 | 80.8% | 21 | 26 | 36 | 93.3% | 14 | 15 | 29 |
| | ID | 84.6% | 33 | 39 | 45 | 72.0% | 18 | 25 | 34 |
| | TD | 82.4% | 14 | 17 | 26 | 56.3% | 9 | 16 | 26 |
| | 学科合計 | 75.5% | 163 | 216 | 313 | 79.0% | 158 | 200 | 309 |
| 美術学科 | 絵画 | 70.4% | 19 | 27 | 71 | 73.0% | 27 | 37 | 70 |
| | 彫刻 | 66.7% | 6 | 9 | 24 | 100% | 5 | 5 | 14 |
| | 学科合計 | 69.4% | 25 | 36 | 95 | 76.2% | 32 | 42 | 84 |
| 合計 | | 74.6% | 188 | 252 | 408 | 78.5% | 190 | 242 | 393 |

（2） 大学院造形研究科（修士課程）

| 研究領域 | | 2022年3月卒業生（2022年4月19日時点） | | | | 2021年3月卒業生（2021年5月1日時点） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 就職率 | 就職者 | 希望者 | 学生数 | 就職率 | 就職者 | 希望者 | 学生数 |
| 造形研究科 | ﾃﾞｻﾞｲﾝ | 54.2% | 13 | 24 | 33 | 37.0% | 10 | 27 | 41 |
| | 美術 | 60.0% | 3 | 5 | 13 | 25.0% | 1 | 4 | 14 |
| | 造形教育 | 66.7% | 2 | 3 | 4 | 50.0% | 1 | 2 | 4 |
| | 合計 | 56.3% | 18 | 32 | 50 | 36.4% | 12 | 33 | 59 |

（3） 大学院造形研究科（博士後期課程）

| 研究領域 | | 2022 年 3 月卒業生（2022 年 4 月 19 日時点） | | | | 2021 年 3 月卒業生（2021 年 5 月 1 日時点） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 就職率 | 就職者 | 希望者 | 学生数 | 就職率 | 就職者 | 希望者 | 学生数 |
| 造形研究科 | ﾃﾞｻﾞｲﾝ | - | 0 | 0 | 0 | - | 0 | 0 | 0 |
| | 美術 | 100% | 1 | 1 | 1 | - | 0 | 0 | 0 |
| | 造形教育 | 100% | 1 | 1 | 2 | - | 0 | 0 | 0 |
| | 合計 | 100% | 2 | 2 | 3 | - | 0 | 0 | 0 |

※就職者数は正社員、契約社員、派遣社員、業務請負をカウント

**※ 補足 2021 年度進学率（進学者／卒業者）**

進学率は以下のとおりです。

（1） 造形学部

| 学科 | 2022 年 3 月卒業生（2022 年 4 月 19 日時点） | | | | 2021 年 3 月卒業生（2021 年 5 月 1 日時点） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 進学率 | 大学院修士課程進学者数 | その他の進学者数 | 卒業者数 | 就職率 | 大学院修士課程進学者数 | その他の進学者数 | 卒業者数 |
| デザイン | 4.2% | 10 | 3 | 313 | 3.9% | 8 | 4 | 309 |
| 美術 | 21.1% | 19 | 1 | 95 | 10.7% | 9 | 0 | 84 |
| 合計 | 8.1% | 29 | 4 | 408 | 5.3% | 17 | 4 | 393 |

（2） 大学院造形研究科（修士課程）

| 研究科 | 2022 年 3 月卒業生（2022 年 4 月 19 日時点） | | | | 2021 年 3 月卒業生（2021 年 5 月 1 日時点） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 進学率 | 大学院博士課程進学者数 | その他の進学者数 | 卒業者数 | 就職率 | 大学院博士課程進学者数 | その他の進学者数 | 卒業者数 |
| 造形 | 6.0% | 2 | 1 | 50 | 5.1% | 0 | 3 | 59 |
| 合計 | 6.0% | 2 | 1 | 50 | 5.1% | 0 | 3 | 59 |

## 2. キャリア開発支援プログラム（正課外）の実施

以下のキャリア開発支援プログラムを実施しました。なお、2021年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、Google Meetや録画配信を活用したオンラインによる開催形式を取り入れて実施しました。

| 実施項目 | 実施内容 |
|---|---|
| 就職対策講座 | キャリア支援ガイダンス、自己分析&企業研究、エントリーシート対策講座、SPI対策講座、マナー・面接対策講座、グループディスカッション講座等 |
| ポートフォリオ作成指導 | ポートフォリオ基礎講座、先輩によるポートフォリオ発表会、ポートフォリオアドバイス会等 |
| 業界研究セミナー | 広告、ゲーム・アニメ・映像業界研究セミナー |
| 各種資格検定 | SPI模擬テスト、TOEIC® IPテスト |
| 低学年向け就職講座 | 学部1、2年生を対象としたキャリアデザイン講座、自分研究講座 |
| 会社説明会<br>インターンシップ説明会 | 学内での個別会社説明会（業界説明会を含む）<br>学内での企業インターンシップ説明会 |
| 合同企業説明会 | ・造形大生のための業界研究フェア（11月10～25日）<br>・造形大生のための企業研究フェア（2月16・17・18日）<br>・東京四美大合同企業説明会（オンライン）（3月2日）<br>（東京造形大学、武蔵野美術大学、女子美術大学、多摩美術大学） |

## 3. キャリア支援室・キャリアサポートの活用促進

CampusNetを活用した学生宛一斉メールの発信によるイベントや求人票に関する情報提供や、学生の昼休みの時間帯に実施した短時間の講座等を通じて、キャリア支援室の認知度向上を図りました。また、対面及びGoogle Meetを活用したオンラインでの進路・就職相談を併用し、学生一人ひとりに応じた助言・サポートを行いました。ポートフォリオの閲覧についても、キャリア支援室内にて3密環境を回避し、ソーシャルディスタンスを確保して学生対応を行いました。

## ■ 教育力の強化

以下に、教育力の強化に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. 教育課程改革

2018 年度に改編した新教育課程も完成年度を迎え、2021 年度の完成年度に向けた運用案に基づき、運用し新教育課程初めての卒業生を輩出することができました。

(1) 2018 年度に改編した教育課程の完成年度を滞りなく運用することができました。引き続き運用を行うとともに教育課程全体の検証を行います。

(2) 英語プレイスメントテストの効果の検証について、12 月に追跡調査を実施しました。基礎クラスの平均点は入学時 47.427 点から追跡調査時 49.3 点と向上し、初級クラス平均点は入学時 75.691 点から追跡調査時 71.844 点と下がったが、基礎クラスでは基礎文法を確認する練習を重点的に行い、基礎の上位クラスや初級クラスは四技能で表現力をつける応用練習を重点的に行ったことで基本的な文法事項の学修が不足したと分析しています。レベル別に分けたことで、学生の実力に見合った授業を展開でき、基礎クラスの底上げにつながりました。

(3) 教職課程再課程認定後の新しい教職課程の運用を継続することができました。引き続き基準に沿って運用を行います。

### 2. 学力の保証・教育の質保証

(1) 授業評価アンケートの実施

授業評価アンケートを前期・後期に実施しました。昨年度に引き続き、CampusNetのアンケート機能を用いて実施しました。

(2) 遠隔授業の効果的な実施

2020年度に実施した遠隔授業に対するアンケート結果を基に遠隔授業のメリットを2021年度授業運営に反映し、遠隔授業を効果的に実施しました。

(3) Google Workspaceの利活用

Google Workspaceにおける様々な機能を授業での資料配布、連絡などに活用するとともに履修相談情報の共有などに活用しています。

(4) クリエイティブスタディガイドの配付

学修のガイドブックであるクリエイティブスタディガイドを新入生に配付し、1年次必修指定科目である「日本語表現法」の担当教員より内容を説明して学修の動機付けを図り、大学での学びに関する基本的な考え方を周知しました。

### 3. FD 活動の実施

以下のFD活動を実施しました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、FD研修会は講義形式の録画映像をオンデマンド配信する形式として実施しました。

| 実施項目 | 実施内容 |
|---|---|
| FD 研修会 | 1. コロナ禍における学生の現状と課題～苦戦する学生への対応について～<br>2. アカデミックハラスメントについて |
| 授業評価アンケート | アンケート結果を担当教員へ開示し、学生からの指摘事項に対する改善を要請 |
| キャンパス・ハラスメント防止研修会 | 外部講師による講演<br>「ハラスメントとはどのような行為が該当するか」について事例を通じて学習し、より良い環境づくりを考える。 |

## 4. 学修成果の発信強化

(1) ZOKEI展（卒業制作展）の開催

2021年度は新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつ、一般来場者の観覧も可能としました。来場者は4,192名となり、2019年度の4,089名より増加しました。実際に観覧することで教育の成果を肌で感じていただくことができました。また、Webサイトは広く公開できることが有益であることから昨年度に引き続きWebサイトも作成し、広く一般に教育成果を発信することができました。

(2) 東京五美術大学連合卒業・修了制作展の開催

新型コロナウイルス感染症の影響により制限された中での開催となりましたが、2020年度と同様の開催方式で、特に大きなトラブル等もなく全日程を全うしました。Webサイトは5美術大学で協議の結果作成しませんでしたが、来場者数は32,337名で2020年度より増加となりました。

## 5. 教育研究成果の発信強化

本学の教育研究成果の発信に向け、以下の事業を実施しました。

| 事業名称 | 概要 |
|---|---|
| 映画「名付けようのない踊り」 | 本学OBである犬童一心監督の映画に協賛を行い、その一環として、犬童監督とアニメーション担当山村浩二氏との対談ビデオ2種の制作を行った。 |

## ■ 研究の研鑽

研究の研鑽に向け、以下を実施しました。

### 1. 「教育研究助成金制度」の運用 （総額 1,000 万円）

学術研究の更なる推進を図るために、研究助成枠を継続的に運用し、以下の事業を実施しました（一部コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった研究を含む）。

2021 年度 教育研究助成事業　研究テーマ・助成額一覧

| 助成対象者 | 研究テーマ |
|---|---|
| 立体物のデジタルアーカイブ技法とデジタルメディア技術を活かした体験デザインについて（2021～2023） | 粟野由美（メディア） |
| 舞台芸術の映像アーカイヴ:日本のマイム研究 | 飯名尚人（映画・映像） |
| 教育・研究の実践としての展覧会パッケージの作成 | 代表 池上英洋（人間形成科目） |
| アジアのシティ・スケープの研究（2019～2023） | 上田知正（室内建築） |
| 東京造形大学における特別講義アーカイブスの作成とその教育と研究への利活用に関する予備的研究（3）（2020～2022） | 小出正志（ｱﾆﾒｰｼｮﾝ） |
| 創造主義を支えるシステムの顕在化（2019～2021） | 小林貴史（教職課程） |
| 制作研究の本分である自作絵画制作研究とその展示発表 | 近藤昌美（絵画） |
| 複数に結び合う「絵」としての世界像。その探求へ:ジル・ドゥルーズ「差異」、ジャック・デリダ「差延」、ミシェル・セール「混合体」の相互性と総合性検討への試み | 清水哲朗（絵画） |
| 現代美術ギャラリー「ギャラリー・シマダ」の調査とアーカイブ作成　（2021～2022） | 末永史尚（絵画） |
| 自然景観の原初性が想起させる人間に眠る野生との共時性について（2020～2022） | 中里和人（写真） |
| 読書推進活動を通した社会ネットワークの形成手法に関する研究 | 沼田真一（人間形成科目） |
| 『美術館を語る』の出版<br>東京造形大学　学芸員課程連続レクチャー | 藤井匡（人間形成科目） |
| 教育研究の一環として都心の画廊での本学学生が参加する展覧会「往復書簡 Vol.3」を企画する | 宮崎勇次郎（絵画） |
| 国際協力分野における造形美術の普及のための書籍出版「ART で国際協力　―世界中に『どこでもドア』をつくろう！」（2020～2021） | 山田猛（教職課程） |

## 2. 地域に根差した研究の推進

八王子市を中心に社会・地域との連携を強化し、教育研究や地域貢献につながる取り組みを継続して実施しました。

| 事　業　名 | 委　託　元 |
|---|---|
| 八王子高齢者支援団体PR動画制作 | 八王子市 |
| NENGA DESIGN COMPETITION | (株)山櫻 |
| 東京2020大会に向けたアートプロジェクト | 八王子市 |

## 3. 学術機関リポジトリ[3]による研究成果発信

美術やデザインなどの関連する分野の教育・研究活動に貢献することを目指し、本学の研究成果である「東京造形大学研究報」等を電子的に備蓄・保存し、かつ社会に発信しました。

## 4. コンプライアンス研修会及び科研費説明会の実施

研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインを踏まえた研修会及び科学研究費の獲得を図るための申請方法等に関する説明会、ならびに資料配布・研究倫理eラーニングの受講案内を2021年6月14日に実施しました。

## 5. サバティカル制度の充実

2021年度は一年間海外渡航(ドイツ)した研修員と半年間の国内での研修を行った研修員の2名がそれぞれ研究成果を上げ充実したものとなった。また、研究成果を研究報へ投稿する予定である。

## 6. 教育研究資料の整備

寄贈資料や収蔵資料を本学の教育研究活動に役立てるために、大学附属美術館の収蔵品、寄贈資料及び大学附属図書館の収蔵書籍・資料の整備(保存環境改善、リスト化、検索システム作品情報掲載等)を実施しました。

[3] 研究機関が論文等を電子的形態で集積・保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム

## ■ 学生サポートの充実

学生サポートの充実に向け、以下を実施しました。

### 1. 教学支援システム「GAKUEN」シリーズの安定的な運用

遠隔授業から対面授業となった科目においても、引き続きCampusNetの学修支援機能を効果的に利用しており、増え続けるデータを削除するなど安定的に運用できるよう取り組みました。
GAKUENの運用も4年目となり、教務課職員の習熟度も上がり、通常のシステム処理である履修登録や成績処理、学年更新も問題なく処理できていることから安定的な運用ができています。

### 2. 全学的なサポート体制の構築

全学的なサポート体制の構築を図るために、以下を実施しました。

| 実施項目 | 実施内容 |
|---|---|
| 障害のある学生に対する学内支援体制の整備 | ・ボランティア学生の確保<br>・合理的配慮の実施学生への継続的支援<br>・福祉車両レンタル 等 |
| 学生相談への対応強化 | ・カウンセラー・ミーティング（カウンセリングルームとの情報交換会）の実施 |
| | ・精神科医との校医契約継続 |
| | ・医務室およびカウンセリングルームの環境整備 |
| | ・カウンセリングルーム開室日程の拡充 |
| | ・オンラインによるカウンセリング体制の整備・強化 |
| リテンション率の向上 | ・休学・退学希望者と教員の面談<br>・英語プレイスメントテストの結果に基づくクラス分けとクラス別ミーティングの実施<br>・保護者への出欠情報提供（Campus Net）<br>・連続欠席学生への職員からの電話連絡<br>・カウンセリングルーム等との連携 |

### 3. 被災学生支援

東日本大震災等の災害救助法適用地域に居住する世帯の学生を対象として、最短の修業年限の間、被災状況に応じ継続的に学費を減免しています。2021年度は、3名の学費減免を行いました。

## ■ 国際交流の推進

以下に、国際化の推進に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. 交換留学生受入体制の強化

学術協定を締結した協定校からの受入は、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止しましたが、コロナ禍という平時とは違う状況下が今後も続くことを見据えて、危機管理マニュアルを策定し、受入の再開に備えました。また、各協定校担当者と現在の各国の感染、医療状況などの情報を共有し、受入を中止せざるを得ない状況であることの理解を得るため、本学への交換留学を希望する協定校の学生に対しては個別に説明し、対応しました。

### 2. 交換留学生サポート体制の強化

欧州とは単位取得の制度が異なり、現段階で本学がそれに合わせて制度を変更することは不可能であるため、本学への留学に際して一定の単位数が必要とされる留学生には、出席した授業時間数の証明書を別途発行する対応をとることとしました。今後受入が再開した場合も、本学への留学で留学生に不都合が生じないよう、同様の対応をしていきます。

## ■ 社会連携・貢献の強化

以下に、社会連携・貢献の強化に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. 接続教育プログラムの充実

小・中・高・大連携事業の一環として、各学校からの依頼に応じて「接続教育プログラム」（現在のプログラム数:14）を行っていますが、2021年度はコロナウイルスの影響により実施を見送りました。

### 2. 知的財産を利活用したビジネスモデルの構築

教員が創作し、本学園が意匠登録したデザインについて、活用の検討を進めました。

### 3. 地域のコンソーシアムとの連携による社会貢献活動

加盟する「大学コンソーシアム八王子」や「さがまちコンソーシアム」と連携し、市民講座の提供等を行いました。

### 4. 受託共同研究事業、社会連携事業事例

受託共同研究等事業（5 事業）、その他社会連携事業（42 事業）を実施しました。主なものを以下に示します。

| 事業名 | 内容 | 提携先 |
|---|---|---|
| 住民主体による高齢者支援団体のプロモーションコンテンツ制作研究 | 八王子市福祉部高齢者福祉課と連携し、市内の生活支援活動を行なっている団体のPR動画作りを行なった。 | 八王子市 |
| 東京2020大会に向けたアートプロジェクト | 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化事業を実施し、文化芸術を通じ東京2020大会の機運醸成を図る。 | 八王子市 |

| | | |
|---|---|---|
| NENGA DESIGN COMPETITION 2023 (NDC2023) | 株式会社山櫻が販売する年賀状のデザインコンペ。（商品価値を高める年賀状デザインの開発）。グラフィックデザイン専攻領域2年生を対象に夏休みの制作課題とし、山櫻よりオリエン、クレデンシャル、マーケティングなど内容の提供を受ける。販売製品化できる作品を作る。授賞式も執り行っている。 | 株式会社山櫻 |
| 未来の「祈りの形」の研究並びに提案 | 大学院プロジェクト科目「会津若松プロジェクト」と連携し、教員と学生、㈱保志プロジェクトチームとともに、未来の「祈りのかたち」について議論を重ね、3チームに分かれ研究を進めた。10月には大学院メンバーと教員とで、会津若松に出向き、中間発表を行った。そこで決まった内容を元に、各チームは提案内容のブラッシュアップ、デザインしたプロダクトのテストマーケティング、一般客に向けたワークショップとアンケート調査を実施し、12月にその結果をオンラインで㈱保志のプロジェクトメンバーに共有すると共に、次年度のプロジェクトの方向性を確認した。 | 株式会社保志 |
| 八王子みなみ野ウインター・イルミネーション | みなみ野各町会や学校ごとに1本のイルミネーションツリーを装飾するイベント。本学は駅前メインストリートの8本と大通りに向かう植栽内の4本を担当。6月までに現地調査、企画集約、7月に企画プレゼン、8月に試作品プレゼン、9月に実施計画プレゼン、9-11月アトリエ内制作、11月末に現地設営、12月初頭に点灯式、1月中旬に撤収というスケジュール。 | 八王子みなみ野駅前イルミネーション実行委員会 |
| スペダギ・バンブーバイク・プロジェクト | 一般社団法人スペダギジャパンと連携し、地域資源を活用したものづくりやコトづくりを通して地域の持続性を向上させる取り組みです。特に竹を活用した子ども用ランバイクを開発し、ランバイクや竹を活用したモノづくりワークショップを開催している。 | 一般社団法人 Spedagi Japan |
| 大学コンソーシアム八王子・夏休みこどもいちょう塾 | 大学コンソーシアム八王子事業への参加。夏休み子どもいちょう塾において、子どもの学ぶことへの関心・意欲を高めることを目的として、八王子市内在住・在学の小学4～6年生の児童を対象に「シルクスクリーン×トートバックにプリントしよう～」を開講した。 | 大学コンソーシアム八王子 |
| フジヤマテキスタイルプロジェクト2021 | 富士吉田の織物メーカー8社と東京造形大学テキスタイル専攻学部生、大学院生8人との産学共同開発企画。<br>実際に販売が可能な新規商品をメーカーと学生が1対1で開発に取り組み、プロトタイプを10月の中間報告展に、最終販売可能な商品を2月の成果発表展にむけて制作していく。<br>本年度はコロナウイルスの影響で打ち合わせは全て遠隔で行われている。 | 富士吉田の織物メーカー8社 |

| | | |
|---|---|---|
| ネクスト・ワークプレイスの研究と提案 | 新しいワークスタイルを前提としたABW（アクティビティ・ベースド・ワーキング）のための、環境・家具、装置等を、オフィス家具メーカーであるコクヨ株式会社と協働で、そのコンセプトならびに具体的な家デザインの提案を行った。 | コクヨ株式会社 |
| Hachioji<br>影絵プロジェクト | 江戸後期から昭和初期まで大衆娯楽として流行し、特に八王子地域で盛んであった伝統芸能「写し絵」の再現を契機に、映写機（風呂）を復元し、伝統の中に現代的な解釈や映像表現を取り入れたオリジナル作品による公演とワークショップを展開し、デザインとアートを通じた地域社会との交流を実践。<br>地域社会の歴史や文化、自然景観などを題材にオリジナルシナリオを制作。今年度は、浅間山の天狗伝説及び氷風穴を題材にした「氷風穴天狗森」を10月に長野県小諸市の読書の森で上演、12月には学内公演も開催した。また、八王子市学園都市文化ふれあい財団とアーツカウンシル東京の依頼を受け、高尾山の天狗伝説を題材にした「高尾山の天狗火」を5月に八王子市芸術文化会館で上演（オンライン配信）、7月には同館で市民の方々との交流を通じたワークショップを開催した。 | 小諸市教育委員会、小諸市氷区、氷風穴の里保存会、NPO法人本途人舎、NPO法人こもろ情報ひろば、NPO法人リベルテ、NPO法人虔十公園林の會、信州音あそびの会、ブリッジサウンドデザイン、公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 |
| JICA（国際協力機構）<br>エジプト就学前教育（造形美術）<br>プロジェクト | JICAの派遣専門家でチーフアドバイザー（エジプト:就学前教育）神谷哲郎氏からの依頼を受け、現在各派遣国からコロナ対応で一時帰国待機中のJICA海外協力隊の幼児教育と美術関係の有志によるプロジェクトチームを結成し、エジプトの就学前教育で活用するための造形活動の題材集や活用方法の動画を作成。エジプトにおいて印刷製本し配布する活動を継続実施。<br>山田ゼミナールの任意参加の学生も参加し、成果物の動画や題材集「Create Your Joy」は、コピーフリーでJICAエジプトより世界配信されている<br>また、7/17に国際協力関係者を対象にした活用のためのリモート講習会オンラインイベント「ーオンラインで作る『遊びを通した学び』アイデア集ー」を開催し、基調講演を担当。 | 独立行政法人<br>国際協力機構<br>JICA:Japan International Cooperation Agency |

## ■ ブランド戦略の強化

以下に、ブランド戦略の強化に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. ブランドイメージの構築

(1)タグラインを活用した本学のイメージ形成を図るための施策としてPR会社との協働により制作した特設ウェブサイトに、社会の多方面で活躍している卒業生6名のインタビューを追加、更新しました。

(2)タグラインイメージポスターの制作

2022 年度版大学案内の表紙デザインにタグラインロゴとステイトメントの一部を組み合わせたイメージポスターを制作、学内各所に設置し、イメージの浸透を図りました。

(3)デジタルサイネージの設置

カフェテリアにデジタルサイネージを設置、2020 年度に制作した専攻領域のプロモーション動画を終日ループ再生し、タグラインの浸透を図りました。

### 2. 展覧会・ワークショップの開催

美術館にて以下の展覧会を開催しました。

| 名称 | 期間 | 内容 | 来場者 |
|---|---|---|---|
| 東京造形大学<br>第 7 回助手展 | 4 月 1 日<br>～<br>4 月 23 日 | 教育運営や学修のサポートを行う助手による展覧会 | 578 名 |
| ZOKEI 賞<br>選抜作品展 | 5 月 17 日<br>～<br>6 月 23 日 | 2020 年度の卒業制作展で、ZOKEI 賞を受賞した優秀作品の中から、美術館で選抜した学生の作品を展示 | 636 名 |
| 天國と地獄。<br>浅葉克己展 | 9 月 6 日<br>～<br>10 月 5 日 | 桑沢デザイン研究所前所長でアートディレクターの浅葉克己氏の展覧会 | 660 名 |
| 髙橋淑人<br>退職記念展<br>Joy ～<br>PAINTINGS<br>2011-2021～ | 10 月 25 日<br>～<br>11 月 27 日 | 2019 年度に本学を定年退職した教員の退職記念展<br>美術学科絵画専攻領域高橋淑人教授の作品を展示 | 1107 名 |
| 森まさあき<br>退職記念展<br>おどるねんど<br>(CS ギャラリー) | 11 月 1 日<br>～<br>11 月 27 日 | 2020 年度に本学を定年退職した教員の退職記念展<br>デザイン学科アニメーション専攻領域森まさあき教授の作品を展示 | 1266 名 |
| 2021 年度<br>東京造形大学<br>博士審査展<br>大学院造形研究<br>科造形専攻<br>(博士後期課程) | 12 月 6 日<br>～<br>12 月 18 日 | 博士後期課程の研究成果発表展 | 279 名 |

※このほか、大学院研究成果発表展など、教育活動に関連する展示を多数行っています。

## ■ キャンパス整備

学修環境及び学生生活環境の改善及び充実、ICT環境の整備を図るために、以下を実施しました。

| 目的 | 実施項目 | 備考 |
|---|---|---|
| 学修<br>環境整備 | アドビシステムズ<br>包括契約更新<br>（2年目）<br>（student option） | 学生に対するAdobe社ソフトウェア無償ライセンス取得<br>使用許諾一括契約（学部生・大学院生対象student optiion）<br>（Photoshop、Illustrator、InDesign、 Premiere Pro等） |
| | 教室の仕様変更 | ・7-404教室（PC教室）リニューアル工事: WindowsPC、Mac各10台増設、<br>デスク交換レイアウト変更、ACタップ再配線、LAN再配線、床材補修<br>・7-403教室（PC自習室）リニューアル工事:デスク交換42台、イス交換2台、<br>木目タイプパネル設置、LAN再配線、床材補修、カーテン交換 |
| | サーバ室 | ・授業用印刷管理サーバの更新は納期の予定が立たず実施せず |
| | 施設の移設 | ・彫刻屋外作業場を法令に則り移設 |
| | 個別空調の導入 | ・7号館3階実習室へ個別空調導入 |
| | 排水・防水工事 | ・1号館4階ラウンジ防水工事実施 |
| | その他設備更新<br>（老朽化対応） | ・空冷チラーユニット更新実施（5号館）<br>・原宿サテライトオフィスの運用停止に伴う原状回復工事実施 |
| 学生生活<br>環境整備 | 学生生活サポート | ・遠隔授業におけるGoogle社のG Suite Enterprise for Educationの<br>契約更新、利用<br>・グラウンド男女更衣室へ貴重品ロッカー設置<br>・8号館更衣室前にウォーターサーバー設置 |
| ICT環境<br>の整備 | 無線アクセス<br>ポイント増設・更新 | ・1～13 号館（10 ヶ所増設） |

## ■ 自己点検・評価の取組み

自己点検・評価の取組みとして、以下を実施しました。

### 1. 自主的・自律的な点検・評価活動

本学独自の自主的・自律的な点検・評価活動として、事務局各部署が収集、管理するデータを取りまとめ、「東京造形大学　自己点検・評価報告書（データ編）」として発行しました。
なお、4月に予定していた「在学生アンケート」は、コロナウイルス感染防止対応により、実施を見送りました。

### 2. 大学機関別認証評価結果への対応

2020年度に受審した大学機関別認証評価の評価結果における指摘事項への対応を自己点検・評価委員会で審議し、関係部門・委員会での改善策の検討を指示しました。

# 専門学校桑沢デザイン研究所の主な事業報告

2021年度事業計画に記載した事業及びその他事業について実施・対応事項を示します。

2021年度の計画事業

- 学生募集の強化
- キャリア支援の強化
- 教育力の強化
- 研究の研鑽
- 学生サポートの充実
- 国際交流の推進
- 社会連携・貢献の強化
- ブランド戦略 ・ 情報発信の強化
- キャンパス整備

## ■ 学生募集の強化

以下に、学生募集に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. 2022年度入試結果（2021年度実施）

(1) 総合デザイン科（昼間部）

推薦入試、一般入試

| 学　科 | 募集人員 | 入学者数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 推薦入試 | 一般入試 A | 一般入試 B | 合計 |
| 総合デザイン科 | 160 | 133 | 35 | 7 | 175 |

※推薦入試は自己推薦（AO 型）、自己推薦、指定校含む

編入学試験（2 年次）

| 専　攻 | 募集人員 | 入学者数 |
|---|---|---|
| プロダクトデザイン | 若干名 | 1 |
| スペースデザイン | | 1 |

(2)専攻デザイン科(夜間部)

| 専攻 | 募集人員 | 入学者数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 推薦入試 | 一般入試 A | 一般入試 B | 合計 |
| ビジュアルデザイン | 160 | 42 | 30 | 8 | 80 |
| プロダクトデザイン | | 6 | 8 | 8 | 22 |
| スペースデザイン | | 12 | 2 | 5 | 19 |
| ファッションデザイン | | 7 | 2 | 1 | 10 |
| 計 | | 67 | 42 | 22 | 131 |

※推薦入試は自己推薦、指定校含む

(3)附帯教育(夜間部)

| | 募集人員 | 入学者数 |
|---|---|---|
| 基礎造形専攻 | 40 | 45 |
| 基礎デザイン専攻 | 40 | 40 |

## 2. 学生募集活動

以下のとおり学生募集活動を実施しました。

| 区分 | 実施項目 | 活 動 内 容 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 学外活動 | 進学ガイダンス | 高校生対象の進学ガイダンスへの参加<br>•対面(申込件数:157 件、うち 16 件開催中止)<br>•資料頒布会(申込件数:39 件、うち 1 件開催中止) | 対面で 170 校の実施を目標としていたが、新型コロナウイルスの影響もあり、企画数自体が振るわず、申し込みをした中でも開催中止となった企画もあった。 |
| | 外部会場合同説明会 | デザイン、美術系大学•専門学校が行う説明会への参加 | 12 会場の参加予定だったが、新型コロナウイルスの影響から、開催しない会場が 1件あった。 |
| 学内活動 | 入学説明会 | 新型コロナウイルス感染防止の観点から、事前予約制で人数制限を設け、実施内容についても、密を回避するため個別対応のプログラム(個別相談、作品展示、学内見学ツアー)での実施とした。 | 年間 6 回実施を予定していたが、緊急事態宣言を受け 1 回(9 月)を中止。<br>総来場者 588 名。 |
| | オープンキャンパス | 新型コロナウイルス感染防止の観点から、事前予約制で人数制限を設け、実施内容についても、密を回避するため個別対応のプログラム(個別相談、作品展示)を中心とした構成での実施とした。 | 来場者 268 人 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 学内活動 | 卒業生作品展 | 新型コロナウイルス感染防止の観点から、人数制限を設け事前予約制での開催。3日間の予約枠が全て会期前に埋まった。過去の来場者数（2016年度:3,566人、2017年度:4,200人、2018年度:4,328人、2019年度:中止、2020年度:2,083人） | 来場者数 1,714 人 |
| | オンライン個別相談会 | 新型コロナウイルス感染防止の観点から、実施を見合わせた学校説明会、学校見学の代替措置として、オンライン会議システム（Zoom）を利用した個別予約制のオンライン面談を、1年間を通して 125 回実施した。 | 利用者のうち、68 名が出願し、50 名が合格した。 |
| | 学校見学（個別対応） | 例年、教育内容・入試に関する説明、施設案内等を実施しているが、新型コロナウイルス感染防止対策の観点から、受付をしないことを基本とした。 | ― |

## 3. 広報機能の強化

高校生を対象とした従来の学生募集媒体だけでなく、インターネット広告や各種ソーシャルメディアを活用し、大学生や社会人に対するアプローチについても強化しました。

| 実施項目 | 実施内容 | |
|---|---|---|
| Webを用いた広報の強化 | 公式 Web サイトでの昼間部総合デザイン科に関する情報発信 | 高校生の質問に答えるかたちで、在校生や卒業生の入学前、在籍中、卒業後の様々なデータを紹介するランディングページ（昼間部特設サイト）を公開。 |
| ソーシャルメディアを用いた広報の強化 | Twitter、Instagram、Facebook などのソーシャルメディアを用いたステークホルダーへの情報提供と、広範的な情報発信。1年間（2021年4月1日～2022年3月31日）の投稿数、フォロワーの増加推移は以下の通り。<br>Twitter　投稿数（310）、フォロワー増加推移（1,984 → 2,561）<br>Instagram　投稿数（204）、フォロワー増加推移（2,400 → 3,469）<br>Facebook　投稿数（123）、フォロワー増加推移（2,262 → 2,417） | |
| イベント予約システム（OCANs）の活用 | 入学説明会やオンライン個別相談会の予約受付や、申込者のデータ管理に活用している。また、同システムは、在学生のキャリアカウンセリング予約や、新型コロナウイルス感染防止対策で利用者制限をしている校内施設の予約システムとしても活用している。 | |
| 接触者データの活用 | システム導入によって、資料請求及びイベント参加のデータを、広報計画策定や、出稿媒体選定などに有効に活用している。 | |
| 「卒業生作品展」の広報強化 | 公式 Web サイト内に、卒業生作品展の特設サイト設置。各種公式 SNS での紹介。事前予約制で定員を設けていることなどから駅貼り広告等は実施しなかった。 | |

## 4. 外国人留学生対応

増加傾向にある外国人留学生の安定的な確保を図るため、以下を実施しました。

(1) 日本語学校教員に向けた冊子への情報掲載、日本語学校掲示される入試カレンダーに広告を掲載。

## ■ キャリア支援の強化

以下に、就職率の向上に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. 2021年度就職率（就職者／就職希望者）

就職率は以下のとおりです。

| 学科/コース | | 2022年3月卒業生（2022年3月31日時点） | | | | 2021年3月卒業生（2021年3月31日時点） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 就職率 | 就職者 | 希望者 | 学生数 | 就職率 | 就職者 | 希望者 | 学生数 |
| 総合デザイン科 | ビジュアルデザイン | 52.6% | 51 | 97 | 114 | 51.5% | 51 | 101 | 104 |
| | プロダクトデザイン | 38.7% | 12 | 31 | 33 | 55.2% | 16 | 29 | 31 |
| | スペースデザイン | 52.4% | 11 | 21 | 25 | 20.8% | 5 | 24 | 26 |
| | ファッションデザイン | 16.7% | 1 | 6 | 6 | 54.5% | 6 | 11 | 14 |
| | 学科合計 | 48.4% | 75 | 155 | 178 | 47.9% | 78 | 165 | 175 |
| デザイン専攻科 | ビジュアルデザイン | 24.6% | 17 | 69 | 81 | 26.2% | 16 | 61 | 63 |
| | プロダクトデザイン | 32.1% | 9 | 28 | 31 | 34.8% | 6 | 23 | 28 |
| | スペースデザイン | 50.0% | 4 | 8 | 10 | 26.7% | 3 | 15 | 16 |
| | ファッションデザイン | 66.7% | 2 | 3 | 5 | 0.0% | 0 | 3 | 7 |
| | 学科合計 | 29.6% | 32 | 108 | 127 | 27.5% | 25 | 102 | 114 |
| 合計 | | 40.7% | 107 | 263 | 305 | 40.1% | 103 | 267 | 289 |

### ※ 補足　2021年度進学率（進学者／卒業者）

進学率は以下のとおりです。

| 学科 | 2022年3月卒業生（2022年4月1日時点） | | | | 2021年3月卒業生（2021年4月1日時点） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 進学率 | 大学進学者数 | その他進学者数 | 卒業者数 | 進学率 | 大学進学者数 | その他進学者数 | 卒業者数 |
| 総合デザイン科 | 1.6% | 3 | 0 | 178 | 1.1% | 2 | 0 | 175 |
| デザイン専攻科 | 0.0% | 0 | 0 | 127 | 0.0% | 0 | 0 | 114 |
| 合計 | 0.0% | 0 | 0 | 305 | 0.0% | 0 | 0 | 289 |

## 2. 就職支援プログラムの実施

以下の就職支援プログラムを実施しました。

| 実施項目 | 実施内容 | 備考 |
|---|---|---|
| キャリア<br>カウンセリング | 【キャリアカウンセラーによるカウンセリング】<br>デザイン分野に精通したカウンセラーによる個別の就職相談。<br>カウンセリングシートへ相談履歴を記録し、継続的・段階的に対応している。<br>・実施回数:103回（実施枠に対する予約率:100％）<br>・週2～5回（1日4・5コマ/予約制） | 新型コロナウイルス感染防止のため、オンライン会議システムと電話にて実施した。 |
| 就職セミナー | 専門の講師による就職活動のレクチャー（説明会、対策講座等）の企画・実施<br>・新入生対象セミナー<br>・昼間部2年生・夜間部1年生対象セミナー（全8回／ライブ配信／就活のためのポートフォリオの作り方、自己分　析指導、面接練習、企業の人事担当者を招いてのパネルディスカッション等）<br>・ファッションデザイン分野学生対象就職セミナー（2回/対面）<br>・留学生対象の就職ガイダンス（2回／ライブ配信）<br>・墨田区協力「すみだワークフェスタ」（1回／ライブ配信） | ライブ配信した就職セミナーは、KDSキャンパスネットからアーカイブを視聴することが可能。 |
| 企業訪問 | 内定企業や卒業生の在籍する企業への訪問<br>（企業との良好な関係維持・企業情報の共有・蓄積） | 直接訪問8社<br>オンライン面談38社 |
| 企業へのポートフォリオ公開 | 学生情報統合管理システム「School Leader」の「学生Webポートフォリオ管理機能」を活用し、学生がWeb上に登録したポートフォリオに関する情報を企業に発信し、求人に繋げる方策を検討した。 | ― |
| 学内企業説明会 | 求人企業による学内での説明会（単独、合同）。<br>求人の説明を聞くだけでなく、企業の採用担当者や現場のデザイナーと直に接することで業界についての理解を深める機会 | 38社（内、5社は合同説明会）。<br>すべてオンライン開催。<br>延べ586名参加。 |
| 正課内<br>プログラム<br>による就職支援 | ・ポートフォリオ制作指導<br>・ファッションアパレル分野に特化したセミナー | ― |
| 支援環境の整備 | ・キャリアカウンセリング予約のオンライン化<br>・就職コーナー利用予約のオンライン化（新型コロナウイルス感染症予防対策のため人数制限を実施）<br>・新型コロナウイルス感染症のため来校できない学生に向けた架電でのフォロー<br>・内定者の就職活動記録による情報提供<br>・関連図書の充実<br>・閲覧用ポートフォリオの整備<br>・インターンシップ情報ファイルの追加<br>・就職コーナーのプリント（自己分析等）の配布<br>・リアセックカードの活用<br>・就活イベント掲示スペースの設置 | ― |
| 教員との連携 | 就職担当者による授業内での求人紹介 | ― |

| | | |
|---|---|---|
| 担当者による相談対応 | 就職相談、応募書類添削、面接練習等（新型コロナウイルス感染症に伴い、メール・オンライン会議システム・電話での指導） | — |
| 就職支援誌「job/job14」作成、配付 | ・デザイン分野に特化したオリジナル就職活動支援誌<br>・内定者の就職活動情報等、本校に特化したコンテンツを掲載 | 学校説明会に参加した受験生にも配布。 |

### 3. 企業情報の共有強化

学内企業説明会や企業面談の記録を報告書として作成し、関連分野の教員との間で情報を共有することで、教員と職員が連携を取りながら、学生一人ひとりの適性に合わせた就職支援を実施しました。

### 4. 就職支援システムの充実

学生情報統合管理システム「School Leader」の就職支援システムを学籍管理システムと連動させ、企業からの求人情報を Web で開示しています。また、教職員が学生個々の就職活動状況を確認し、進路指導に役立てています。

## ■ 教育力の強化

以下に、教育力の強化に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. 夜間部の教育課程改編

複雑化した今日の社会状況に対応できるデザイン分野の人材育成を目的に、2021年4月より、専攻デザイン科（夜間部）へ改称し、社会人が修学しやすい教育課程を開講しました。

### 2. 遠隔授業の実施

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、活動指針の「活動制限レベル」に沿って、校舎内の滞留者数を制限するとともに、遠隔授業を中心に一部対面授業を取り入れた授業運営を行いました。

### 3. FD活動の実施

以下のFD活動を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、中止しました。

| 実施項目 | 実施内容 | 実施時期 |
|---|---|---|
| リスクマネジメントの観点から SNS 対策講演会 | SNS の基礎知識から、利用する際のルールやリスク、炎上のメカニズム、対策などを、キャンパス内で起こりうる事例や対策について講演 | 3月<br>中止 |

### 4. 教育成果発信のための事業

教育成果の発信に向け、以下を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、卒業生作品展、基礎造形専攻修了作品展以外は中止しました。

| 実施項目 | 実施者 | 開催時期 |
|---|---|---|
| ファッションショー | ファッションデザイン専攻、<br>ファッションデザインコース | 2月<br>実施 |
| 卒業生作品展 | 総合デザイン科（昼間部）3年、<br>デザイン専攻科（夜間部）2年 | 2月<br>実施 |
| 基礎造形専攻修了作品展 | 基礎造形専攻（附帯教育） | 3月<br>実施 |

## ■ 研究の研鑽

以下に、研究の研鑽に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. 「研究助成制度」の運用

「研究助成金制度」を運用し以下の研究活動を行いました。

| 事業名称 | 実施者<br>（分野） | 概要 |
|---|---|---|
| 2018～2020年度までの3年間の教育研究助成金の成果を中心とした、椅子の研究展示 | 大松俊紀<br>（SD 分野） | 2018～2020 年度までの3年間に渡り教育研究助成金の支援を受け行ってきたアルミ製椅子の研究成果を、コロナ禍の影響を鑑み外部会場にて展示発表とした。より充実した内容とするため、これまで研修会など桑沢で研究してきた椅子の展示も併せて行っている。 |
| オートクチュールドレスの構造と、特殊素材の縫製技法の研究 | 辺見小百合<br>（FD 分野） | 前年度の計画で1着目のドレスをシルクサテンという特殊素材で制作。本年度は異なる特殊素材を用いて2着目を制作。市販のプレタポルテとの縫製技法と仕様の違いや、特殊素材の扱いなどについて研究を行った。 |
| パッケージデザインに関わる研究２（これからのパッケージデザイン） | 永沼真一郎<br>（VD 分野） | これからのパッケージデザインには、どのようなことが考えられるのか、パッケージの役割や変化はどう考えられていくのか、パッケージデザインを通しての調査・研究。所属する日本パッケージデザイン協会での活動を軸に、パッケージデザインに関する情報を収集しつつ研究を実行した。 |

### 2. 教員研修制度

教員の研究成果を取りまとめた研究レポートを刊行するとともに、ウェブサイトに掲載しました。

## ■ 学生サポートの充実

以下に、学生サポートの充実に向けた実施・対応事項を示します。

### 1. 高等教育の無償化制度への対応

高等教育の修学支援新制度の運用開始に際し、学生への適切な通知、連絡等を実施し、確実な運用を実施しました。

### 2. 学生のメンタルケアの充実

学修や学生生活に関する相談、メンタルケアのためのカウンセリングを、以下のとおり実施しました。なお、臨床心理士によるカウンセリングは、新型コロナウイルスの影響により、登校が可能となった以降に対応しました。

| 実施項目 | 2021年度の利用件数 |
|---|---|
| 臨床心理士によるカウンセリング（面談・オンライン） | 69件 |
| 電話カウンセリング（本校専用ダイヤル） | 90件 |
| Webカウンセリング（メール） | 1件 |

### 3. 学生情報統合管理システム「School Leader」の活用

学生情報統合管理システム「School Leader」を活用し、「入学前」、「在籍時」、「卒業後」の学生情報を一元的に管理し、入試種別ごとの学生の就学・就職状況や中退率等について調査しました。これにより得たデータは、教育課程や広報戦略の改善に向けた検討に活用します。

### 4. 奨学金制度の充実

経済的な理由により修学が困難になった学生を対象に、以下のとおり奨学金を給付しました。

| 区分 | 名称 | 奨学金の概要 | 給付者数 | 給付額<br>（1人当たり） |
|---|---|---|---|---|
| 研究所 | 桑沢デザイン研究所奨学金 | 経済的事情により学費を納付することが困難で学業成績、人物共に優秀である者への奨学金授与 | 17名<br>（総合デザイン科3年生、デザイン専攻科2年生） | 総合デザイン科3年生:<br>最大45万円<br>デザイン専攻科2年生:<br>最大23万円 |
| | 桑沢デザイン研究所編入学生奨学金 | 本校デザイン専攻科卒業見込者、同系大学等卒業又は卒業見込み者が、総合デザイン科2年次へ編入した場合に奨学金授与 | 5名<br>（総合デザイン科2年生） | 総合デザイン科2年生:<br>学外からの編入学者<br>15万円<br>学内からの編入学者<br>（30万円）は該当者無し |
| | 所長賞 | 学外で実施される著名なデザイン専攻科コンテストへの参加を奨励するため、優秀な賞を受賞した学生を表彰 | 1名<br>（デザイン専攻科2年1名） | 在学生:各5万円 |

### 5. 留学生への支援

留学生への就学支援の一環として、4 月にオリエンテーションを開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響のため中止し、個人情報アンケートと日本での学生生活に関する資料および冊子を送付しました。
また、2 月には就職担当と連携し、卒業後、就職時・就職活動時に必要となる在留資格の変更に関する申請手続き等について指導する説明会をオンラインで実施しました。

### 6. 課外活動への資金援助

学生の課外活動支援の一環として、文化祭「桑沢祭」開催への助成を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの影響のため、「桑沢祭」は中止となりました。

### 7. 高等教育の修学支援新制度の対象機関としての認定

授業料・入学金の減免と返済不要の給付型奨学金が支給となる、高等教育無償化の対象機関として認定を受け、本年度は 57 名の学生が受給となりました。

## ■ 国際交流の推進

以下に、国際交流に関する実施・対応事項を示します。

### 1. バウハウス・デッサウ財団との連携強化

(1) バウハウスツアー

バウハウス・デッサウ財団の協力により、バウハウス・デッサウ校の建物見学、当時の学生と同じように校舎内でワークショップの授業を実施、学生寮の宿泊、市内名所見学等を通して、バウハウス教育の一端を体験するツアーを、2022年3月下旬に実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を受け中止としました。
ツアー中止の代替として、オンラインによるバウハウス・レクチャー＆ワークショップを2回開催しました。
学生がワークショップにて制作した作品は、バウハウス・ミュージアム・デッサウで、2021年11月に開催された展覧会にて、桑沢デザイン研究所の学生による作品として展示されました。

## ■ 社会連携・貢献の強化

以下に、社会連携・貢献の強化に関する実施・対応事項を示します。

### 1. 社会連携事業「渋谷みやげ開発プロジェクト」（通称:シブヤフォント）[4]の継続実施

2016 年度より、渋谷区・障害者就労施設・本校の連携による新製品の開発事業「渋谷みやげ」に取り組んできました。障がい者理解に向けたソーシャルアクション「障がいのある人が描く文字や絵柄をフォント・パターン化したパブリックデータ『シブヤフォント』」は、2019 年度には公益財団法人日本デザイン振興会が主催する「グッドデザイン賞」を、2020 年度には「ソーシャルプロダクツ・アワード 2021 大賞」と「IAUD 国際デザイン賞金賞」を、2021 年度には「内閣府日本オープンイノベーション大賞」を受賞しました。

[4]渋谷の障害者支援施設で働く障害のある人が描いた文字、数字、絵等を、本校学生がフォントやグラフィックパターンとしてデザインし、デジタルファブリケーションの手法を活用しながらさまざまなプロダクトに活用することで、障害者に新しい収益を生み、渋谷を代表する新しいお土産を生み出そうとするプロジェクト

## ■ ブランド戦略 ・ 情報発信の強化

以下に、ブランド戦略・情報発信の強化に関する実施・対応事項を示します。

1. **教育の使命・目的の明確化**

   引き続き高等教育機関の無償化を図る大学等修学支援法による修学支援の対象機関としての適格要件を満たすために、自己評価を実施して、学校自己評価報告書を作成しました。自己評価実施にあたっては、私立専門学校等評価研究機構が定める「専修学校における学校評価ガイドライン」の評価基準を基に検証を行い、評価基準にある『教育理念・目的・育成人材像』として、教育の使命・目的を明確化しています。

2. **公式ウェブサイトでの「自己評価報告書」「学校関係者報告書」の情報発信**

   実施した自己評価の内容を「学校自己評価報告書」として刊行し、公式ウェブサイトに公開しました。
   また、自己評価結果を踏まえた学校関係者評価を、コロナ禍に配慮し郵送にて集計実施。結果を「学校関係者評価報告書」として刊行し、公式ウェブサイトに公開しました。

3. **シラバスの公表**

   授業の内容、到達目標、成績評価の基準や方法を記載したシラバスを公表しました。

4. **公式ウェブサイトでの「卒業生作品展」の情報発信**

   「卒業生作品展」の作品を学外に広く情報発信することにより、ブランド力を高め、学生募集、企業からの求人への活用を図ってきました。新型コロナウイルスの影響を受け開催が危ぶまれていたので、実展示とウェブサイトでの展示を並行して準備しました。
   ウェブサイトでは、インターネット上のバーチャル空間を設定して、アーカイブの機能も持たせることで、来場者と同様の鑑賞を体感してもらいました。

5. **公式ウェブサイト、SNS 等を用いた情報発信**

   新型コロナウイルス禍にできることとして、公式ウェブサイト、SNS等も用いた情報発信を強化しました。

6. **「KUWASAWA Creative Hub（クワサワ・クリエイティブ・ハブ協議会）」による事業の展開**

   2021年5月に開催された「ジャパンクリエイティブ展」へ協力し、卒業生をピックアップして紹介しました。また、工藤所長がトークセッションに登壇されました。

## ■ キャンパス整備

以下に、キャンパス整備に関する実施・対応事項を示します。

### 1. 施設整備

以下の施設・設備について、新設・更新を行いました。

| 目的 | 実施事項 | 備考 |
|---|---|---|
| 学修<br>環境整備 | コンピュータ室のPC更新 | 第1、第2、第3コンピュータ室のパソコン及びサーバのリプレースを実施。 |
| | 授業運営に必要な<br>AV設備の設置 | 学生の受講環境を改善するため、新たなAV設備を設置。 |
| 学生生活<br>環境整備 | 空調設備の計画修繕 | 経年劣化により故障頻度が増えてきた空調（エアコンおよび外調機）について複数年計画による改修工事に着手。授業や学事に影響の少ない年末年始に、本年度は3階を中心に工事を行いました。 |
| 学生生活<br>環境整備 | コロナ禍感染防止対策 | •遠隔授業におけるGoogle社のG Suite Enterprise for Educationの利用<br>•遠隔授業におけるZoom Video Communications社のビデオ会議システムZoom Educationの利用<br>•遠隔授業におけるDropbox JapanのDropbox Educationの利用<br>•サーモグラフィカメラの追加導入<br>•教室、コンピュータ室における各席間の飛沫防止パーテーションの使用<br>•学生ホールにおける各席間の飛沫防止パーテーションの使用<br>•学内各所に設置済の消毒液の使用<br>•委託業者による教室内の消毒作業 |

# 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響化にあるものの、感染防止対策の実施を行いながら予定していた事業、特に対面を伴う学生募集活動、キャリア支援活動、学内外での行事を行うことができました。
授業運営においては、一部オンラインでの遠隔授業運営を行いながら、対面授業を実施いたしました。
学園におきましては、新たに「職員メンター制度」を導入し、新入職員が職場環境に慣れるための支援をし、職場内でのコミュニケーションを図ることを目的とした取り組みを行いました。
大学おいては、本学OBである犬童一心監督制作の映画「名付けようのない踊り」の上映に際し、大学より協賛を行い、その一環として、犬童監督と同じく本学OBで同映画のアニメーションを担当した山村浩二氏との対談ビデオ（教育活動版・大学広報版）2種類の制作を行いました。
また、専門学校桑沢デザイン研究所においては、学生定員の見直しに伴う学習環境の拡充に向けて、隣接する用地、建物を取得しました。同用地・建物は研究所での教育活動を広く実施していくとともに、東京造形大学のサテライト機能、ギャラリー、就職活動拠点として活用していく予定でおり、次年度において施設改修及び環境整備を行い運用していくこととしています。

2022年度以降も引き続き2020年度に新たに策定した以下の「次期中期計画（Road to 2025:2021-2025）」に基づき、持続可能な経営による造形教育の社会寄与を理念として、各実施項目の実行に努めてまいります。

# 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

学園として、安定的且つ持続的な運営を行うために、中長期的な収支バランスの取れた財政基盤の確立を目標として、計画的な基本金組入や、資産運用、減価償却引当資産の積立を継続して行ってまいりました。今年度も、コロナ禍という未曽有の状況の中、新型コロナウイルスの感染症予防の徹底を図るための費用を投じ、学生及び教職員の安全な学修環境整備に力を注いでまいりました。

また、専門学校桑沢デザイン研究所を中心として学修環境の改善を図るべく、現校舎の近隣の土地及び建物を新教育施設として取得いたしました。教育の質の確保のために、今年度の事業実施計画の見直しを図り、遠隔授業等の対応や学生への奨学金の支給、新教育施設の改修等の費用を投じ、学修環境の満足度を維持する施策を実行いたしました。その結果、今年度決算において、事業活動収支計算書における事業活動収入は 48 億 7,514 万円、教育活動収支差額は 3 億 5,932 万円、経常収支差額は 5 億 2,788 万円となり、単年度収支である基本金組入前当年度収支差額は、5 億 4,277 万円となりました。

東京造形大学、桑沢デザイン研究所ともに、キャンパスの修繕や維持費用については一定年数が経っており、施設設備の中長期的な修繕計画が課題となっています。東京造形大学については、第 2 号基本金の組入や既存設備の修繕や改修、また桑沢デザイン研究所は空調設備等の入れ替え計画、新教育施設の改修を実施してまいります。それに伴い建物、構築物、機器備品等の取り替えに備えた特定資産資金の確保に努めるべく、継続的な計画を立ててまいります。

今後も 2021 年度策定の中期計画の基本方針に基づき、単年度の収支のプラスを継続的に維持し、教育費用及び施設設備の維持費用への支出を確保するよう努めてまいります。